

## 顔面・頸部放射線治療患者の苦痛への援助

中6階病棟 発表者 田中房江

鈴木幸美・矢野口宏子・小林鈴枝・百瀬香絵子  
紅谷順子・飯森真理子・森島貞代・大矢淳子  
丸山貴美子・西山隆子・小林明美・中村理恵子  
日笠真由美・松原由香利・萩原きよみ・桜田恵智子

### I はじめに

顔面から頸部放射線治療（以下照射とする）では、比較的早期から唾液分泌の減少、頑固な口内痛、開口困難をおこし、食事摂取量の減少などさまざまな苦痛にたいし、少しでも軽減できないかと思いつき取り組んでみた。

### II 研究期間

昭和58年7月～昭和59年4月

### III 研究方法

- (1) 過去2年間の看護記録の分析（全症例数22例）
- (2) 事例検討

### IV 研究結果

#### (1) 分析結果

22例中13例が口渇を訴え、12例が口内痛を訴えている。（表1）いずれの人も照射開始後1週間前後（1000Rad前後）で何らかの症状を訴え、最も早い人で400Radの時点で口渇を訴えている。咽頭異和感は22例中7例、咽頭痛は9例で口渇とほぼ同時、あるいは多少前後して現れる。口内痛が最強の時には「咽の刺すような痛みで吐きそうになる」「つばを飲み込むのにも痛い」と訴えた。その他、熱感及び熱発が5例、咳嗽2例、嘔声2例。前述の症状に対しさまざまな対処がなされていた。（表2）そのうち水分摂取が最も効果あるもの3例、ぬれマスクの使用7例、ボール水超音波吸入施行20例、アズレン含嗽11例であった。これらの対処とともに照射を一時中止する症例も多く（15例）、1～2週間照射を休むことで症例は改善し、照射再開へといったっている。（表3）

またこれらの症状に伴い食事変更を余儀なくされることが多く、22例中19例が変更をおこなっており、その内容は常食から全粥軟菜刻み食や7分粥、5分粥、3分粥と口内痛が強度の時は特別流動食を数日間摂取している。食事変更により多少の改善はみられたが、著明な改善はみられず補液施行は7例あった。食事摂取量は症例改善とともに増え、食事も固いものへと変更されている症例もある。（表3）

## (2) 事例検討

### 1) 患者紹介

患者 ○沢○ 83才 女性

病名 左口唇癌

主訴 左口唇の痛痒さ 頭痛 倦怠感

病識 唇のアレにバイ菌が入り、膿んでしまったので放射線かける。

性格 ほがらかで物事にこだわらない。くよくよせずはっきりしている。東京のアパートで一人暮らし

既往症 昭和57年、肝硬変にて入院。以後内服治療中

昭和58年 硬膜外血腫にて手術施行

現病経過 昭和58年4月、肝硬変症状悪化にて某病院入院。入院当初から口唇のアレあり。12月左口唇潰瘍増強し口唇癌と診断。昭和59年1月30日、照射目的にて当科入院。

### 2) 看護の実施および評価

I期：入院から照射一時中止まで

II期：照射中止期間

III期：照射再開から現在まで

#### <I期>

看護目標：照射に対するオリエンテーションをおこない、反応を最少限にとどめるよう指導し照射がスムーズにおこなえるようにする。

照射開始とともに治療に対するオリエンテーション（表4）をおこない、機械的刺激による粘膜損傷と感染を避けるために歯ブラシの使用を禁止し、含嗽を励行するようにした。オリエンテーションに対し、患者はうなづきこの時点より義歯をはずし、食事は医師の指示に従い全粥軟菜刻み食とした。

総線量が1000 Rad を越えると、口唇のアレ、口内痛、食事のしみる感じが出現してきた。口唇のアレにはリップクリームの塗布をすすめ一時的に効果を得た。また、含嗽とともにボール水超音波吸入をすすめたが「面倒くさい」と言い実行されなかった。

1600 Rad 前後より口内痛を強く訴え、食事摂取量が減少しはじめた。口内には発赤、潰瘍形成を認めたため、ピオクタニンで患部痛は一時的に軽減した。

食事は痛みのため摂取量が減少し、食事をやわらかくすることをすすめたが、本人が「この食事で頑張る」と意欲をみせ、生卵を時折り購入したり、イチゴ・イチゴ味の乳製品などを少しづつ摂取した。照射がすすむにつれて口内痛は増強し全粥がほとんど摂取できなくなったが、嚥下は可能なため特別流動食に変更した。

#### <II期>

看護目標：照射の反応に対し、適切な処置をし、苦痛の軽減に努め回復を促す。

口腔内の反応は照射を休むことで軽減の方向へ向かった。口内痛に対してはピオクタニンを塗布し、また自らも塗布する姿もたびたびみられた。口唇の痛みに対してはキシロカインゼリーの

塗布を試みたが、著明な痛みの改善にはいたらなかった。そこでせめて夜間だけでも口渇を軽減できないかと思い、ぬれマスクの使用をすすめた。同時に医師よりアズレン含嗽が処方となり、毎食後と就寝前に必ず含嗽するようにした。ぬれマスクは簡単で患者からすすんでおこない、アズレン含嗽も「さっぱりして気持ち良い」との声が聞かれた。

特別流動は変更時点の1食だけは甘いために食べられたが、「まずい」「あきる」「おなかがガボガボする」と訴え、本人の固形物を食べたいという希望を考慮し、5分粥軟菜刻み食にした。しかし、食事摂取量は増えず、医師より胃ゾンデ挿入をすすめられたが、本人の口から食事をしたいという気持ちから「必ず食べるから」と約束した。そこで私たちは、今まで患者自身に食事摂取量のチェックをまかせていたが、食事摂取表(表5)を用い具体的に副食の摂取量を記入し、不足分を分食や間食で補えるようにした。

### <Ⅲ期>

看護目標：照射の反応を最少限におさえ、治療を円滑におこない退院できるよう援助する。

患者自身が自らビオクタニン・リップクリームを塗布し、込めガーゼで創部を保護したり、ぬれマスク使用などをおこなって工夫する姿がみられた。口渇に対してはさらに人工唾液をすすめた。人工唾液の含嗽は今まで口渇のために夜間3～4回目覚めたものが1～2回に減り、効果を得た。一方、吸入を再三すすめ一緒に施行したところ咽頭痛は楽になり、しかも自らおこなうようになり、現在3～4回/日実行されている。

また、照射前後に口腔内を氷で冷やすことで、口内の炎症を防げるのではないかとこのことで、照射前後に氷片を含むようにした。

照射再開に伴い口腔内反応も再出現しているが、口内痛は自制内であり食事は主食にふりかけたりして1/2以上は摂取できた。

### 3) まとめ

予防的処置として、歯ブラシの禁止、含嗽による口腔保清、食事をやわらかいものに変更などおこなったが、1000 Radを越えた頃から口内痛が出現し食事量が減少した。そして結局、照射を一時休むことで反応を軽減させ再び治療を開始した。この経過の中で私たちは少しでも苦痛をやわらげたいと、ぬれマスク、アズレン含嗽、人工唾液、吸入、食事変更などさまざまな対症療法を工夫して、一時的ではあるが症状の緩和を得ることができた。一方、患者自身の意志と意欲により、自ら食事を工夫することで極期を乗り越えた。

## V 考 察

照射部位が頸部や咽頭にかかる場合、口渇や口内痛は頻発の症状と思われる。それらはほとんど予防や治療方法がなく、特に口渇は最後まで残る症状であり、対症療法のみである。安藤ら<sup>3)</sup>は湿ったマスク、氷頸、蒸気吸入は口内の乾燥、疼痛の緩和には効果的であったと報告しているが、今回の症例でもぬれマスク、吸入、人工唾液などで一時的な症状の緩和を得た。また含嗽は、諸症状の緩和を図る意味と感染予防の面から頻回になさねなければならない。石田ら<sup>4)</sup>は、それぞれの症状に適した含嗽薬を使用することで効果を得たと報告しているが、今回は医師との相談のもとにア

ズレン含嗽が処方され、患者からは「さっぱりする」との声が聞かれた。石田ら<sup>5)</sup>も放射線治療による口内炎においてはアズレン含嗽の効果を認めており、今後は、それぞれの症状に適した含嗽薬の使用を検討していきたい。

食事に関しては、当科では従来より経口摂取を重んじてきた。また照射の反応で経口的に食事が摂取できなくなった時には、患者の状態、嗜好や食べやすさなどを考慮し食べられるものを摂取するように援助してきたが「経口摂取できる」ということが、患者の体力・気力の増進につながることを今回再認識した。

## VI おわりに

今回の研究をきっかけにスタッフ間で援助について見直し、さまざまな症状に対応することができた。

なお第43回医学放射線学会で口腔に照射をしている患者に対し、照射前後に氷片を含むことで総線量4000 Rad前後まで照射を続行することができたとの報告があったため、今回の症例より取り入れ経過を観察してきた。

## 謝 辞

今回の研究にあたり御協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- (1) 真島英信：生理学 299 - 392 1974年
- (2) 大川智彦他：放射線治療による副作用と患者管理 臨床看護7 1204 - 1208 1982年
- (3) 安藤弘子他：上咽頭癌患者の看護 放射線治療に伴う苦痛の緩和に対する援助 臨床看護7 1151 - 1159 1982年
- (4) 石田福子他：頸部咽頭を中心に放射線を受ける患者の看護 臨床看護7 1187 - 1191 1982年
- (5) 石田信行他：口腔外科領域における含嗽剤アズノール錠の使用経験 歯科展望36 (6) 1109 - 1113 1970年

(表1, 2)

表1 照射の反応

反 応	人 数
口 渴	13
口 内 痛	12
咽 頭 痛	9
咽 頭 異 和 感	7
熱 感 及 び 熱 発	5
咳 嗽	2
嘔 声	2
そ の 他	5

表2 照射の反応に反応する処置

対 処 方 法	人 数
ボ ー ル 水 吸 入	20
ア ズ レ ン 含 嗽	11
ぬ れ マ ス ク 使 用	7
イ ソ ジ ン 含 嗽	2
ヒ ビ テ ン 含 嗽	2
水 分 摂 取 が 最 も 効 果 あ る も の	3
人 工 唾 液 使 用	1
ア フ タ ッ チ 使 用	2
硼 砂 グ リ セ リ ン 使 用	3
ピ オ ク タ ニ ン 使 用	3
冷 罨 法	5
ト ー ク 使 用	1

(表4)

## 治療オリエンテーション

### 治療に関する諸注意

(1) 照射を受けるにあたって

- 治療時間・場所・受付を覚えてください。
- 治療の行き帰りは、詰所に連絡してください。
- 照射中は、先生に言われた姿勢で受けてください。

(2) 照射部位の保護をしましょう。

- 正確な場所に照射するため、マークは絶対にとらないでください。  
(とれた時は、知らせてください。)
- 照射部位に絆創膏・トクホン・軟膏等は、つけないでください。
- 皮膚がやけどをしてくるようになりますが、そのままにして皮をむかないでください。
- 下着はのりのきいたかたいものは避け、柔らかく吸湿性のあるものがよいでしょう。
- 皮膚は、いつもきれいに乾燥させておきましょう。
- 入浴時は、照射部位には石けんを使わず、こすらないようにしましょう。

(3) 治療に耐える体力作りを!

放射線治療は、体力の必要な治療です。そのため栄養をたっぷりって体力を保守することが一番大切になります。その意味で病院食は栄養たっぷりのバランスのとれた最もよい食事ですので、治療食だと思ってください。そして第一に病院食を十分に食べることを考え、(主におかずを多く) その他に間食をすることをすすめます。

※ カロリーの高い間食物

- 菓子類…………カステラ, おまんじゅう, 飴など
- 乳製品…………チーズ, バター, マーガリン, プリンなど
- 卵, マヨネーズ
- 菓子類…………バナナなど
- その他…………ハチミツ, サツマイモ

これらは、あくまでも参考ですので、好きなものを何でも食べるようにしてください。

◎ 体力のめやすとなるのは体重です。体重を減らさないように、栄養をたっぷりってください。

#### (4) 検査について

治療中に、どのくらいよくなったかをみるために、レントゲン写真や透視を行なうことがあります。そのつど指示がありますから従ってください。

◎ 治療中、何か変わったことがあったら、何でも知らせてください。

治療が終わるまで、がんばりましょう。

#### 治療部位別の諸注意（口腔内・首・喉にかけている人）

◦ 食事の味がしみたり、食べにくい時は食事を軟かくしていきます。

◦ 口が乾いた時は、うがいをしましょう。

◦ のどが痛い時、声がかすれる時は、吸入をすると楽になります。

◎ 吸入器は詰所に備えてありますから、自由に使用してください。使用方法は看護婦に聞いてください。

◦ 口の中は、いつもきれいにしておきましょう。

◦ 入れ歯、歯ブラシは治療期間中、また治療が終わってもしばらく使わないようにしましょう。

◦ 熱い物、冷たい物、味の濃い物は刺激になるので避けましょう。

(表5)

## — 食 事 表 —

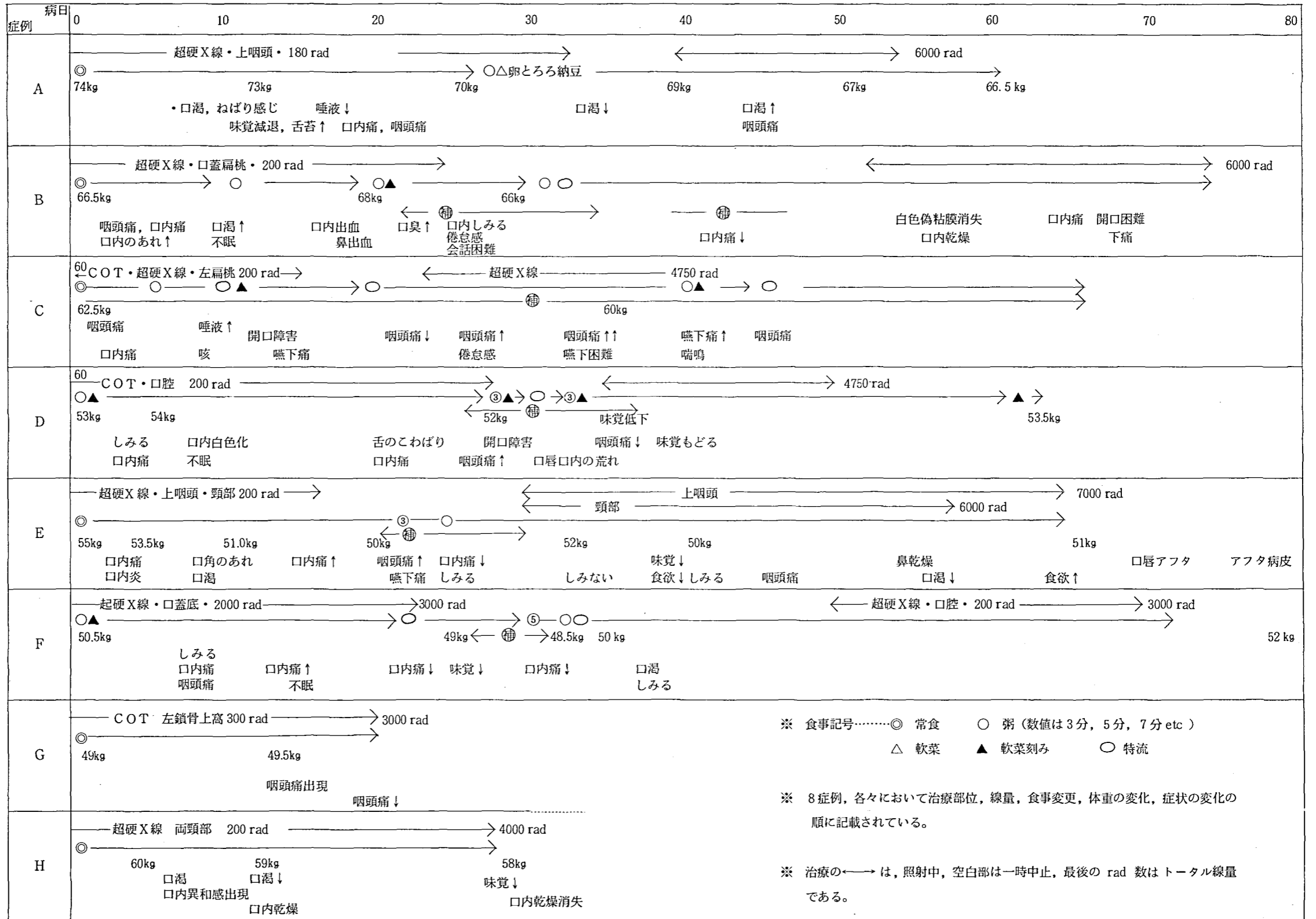
○ 沢 ○ 糸 さん

月 日	朝		昼		夕	
	主 食	副 食	主 食	副 食	主 食	副 食
2/29	3/4	のりの佃煮	1/2	グロンサン 1本 ヨーグルト 2/3 温泉タマゴ 1コ	1/2	山かけ 少量
3/1	2/3	かぼちゃの煮付 1/2 野菜と豆腐の煮物 2口 ふりかけ	1/2	みそ汁 1口	1/3	山かけ 1口 牛乳かん 全部 卵とじ 2口 汁 2口
3/2	2/3	ジュース 400cc グロンサン 1本	2/3	玉子豆腐 寿司 1コ 煮物 1/2 せんべい 2枚 ドーナツ 1口	1/2	煮魚 2/3 いもバター 少々 ふろふき大根 2口
3/3	4/5	いり卵 4/5 みそ汁 1口	1/2	マーボー豆腐 1口 サラダ 1口 グロンサン 1本	2/3	みそ汁 3口 魚 2/3
3/4	1/3	みそ汁 1口 煮物 1/2 グロンサン 1本	1/3	1/3	1/2	きんとん 小盛 みそ汁 1/2
3/5	1/2	生卵 1コ だんご 4コ グロンサン 1本	3/4	魚 野菜の煮物 2/3 みそ汁 1口	2口	プリンアラモード 1コ 副食 2口 ふりかけ バナナ
3/6	1/2	グロンサン 1本 ふの卵とじ 全部 なすの煮つけ 少し ふりかけ みそ汁 1/3	全量	すまし汁 白身魚 全部 ゆでキャベツの刻み 1口	2/3	豆腐 1/2
3/7	1/2	かぼちゃ 2/3 煮物 1/5 みそ汁 2口 グロンサン 1本	全量	ふりかけ	全量	豆腐 1/2 卵とじ 全部 みそ汁 1/2
3/8	全量	かぼちゃ 2/3 卵 1コ ふの卵とじ	3/5	生卵 1コ ふの煮物 全部 煮物 3/4 豆腐 1口 グロンサン 1本	全量	魚 全部 フルーツポンチ 2/5 みそ汁 1/5
3/9	1/2	グロンサン 1本 ヤクルト 2本	全量	副食 1/2 すまし汁 1/3	全量	魚 全部




(表3)

治療と食事変更・症状との関係



(表6)

	歴日	病日	治療	食事摂取量	体重	患者の状態・言動	看護の実施	結果・評価
I    期	1/31	1	超硬X線 200R左口腔へ 5×Wで開始	全粥軟刻 ⊕ 8割 ⊖ 5割	40.0	 左口唇上部化膿 左口角あれ	治療オリエンテーション施行 内の tumor からプローベ (Dr 施行)	● 説明に対してうなづいているが、本当に理解しているかは不明。 → たびたびのオリエンテーションが必要。
	3/6		1000R		41.5	口唇があれで痛みある。食事が思うように摂取できない。みそ汁がしみる	リップクリーム購入	● リップクリーム使用直後は乾き軽減するが、頻回に使用しないと余計乾きが強くなってしまふと、好んで使用しない。
	15		2400R	⊕ 5割 ⊖ 3割		口内があれで食物があたり、痛くて食べられない	流動・減塩食など食事内容を考慮	● 食事は今までどおりでいい、これでがんばると強く希望する。
	16	18	2600R	朝⊕ 0 ⊖ 0 イチゴ牛乳 昼⊕ 1割 ⊖ 0 夕～時流、1割	40.0	口内痛強いが嚥下は可能。 生卵を時々、購入し食べている  流動食を食べてみるという 外に出ていた tumor は縮少してきた 左口角がくっついて痛い 口内痛あり	ピオクタニン塗布 含嗽・吸入すすめる 再度、流動食をすすめる 夕食から流動食に変更  ピオクタニン、硼砂グリセリン塗布	● ピオクタニンにて、口内痛一時軽減  ● 硼砂グリセリンは甘くてつけやすい。
II    期	2/17	19	一時中止	殆んど食べていない		特流はまずくて食べられない。 グロンサンを飲んでる。 点滴は、血管が出にくいためしたくない。	食べられるものをすすめる。	● 食事量減少し、高令でもあるため、しばらく治療休みとなる ● 甘い物 (あん・ようかん・いちご牛乳) を食べている。
	19		夕～5分粥軟刻	⊕ 5割 ⊖ 1割			本人の布望を考慮して夕食から5分軟刻に変更 (牛乳はヤクルトに変更)。 Dr から鼻腔ゾンデすすめられる。 キシロカインゼリー口唇に塗布。 食事摂取量に対しては、本人の訴えが不正確なため、食事チェック表を用い下膳は看護婦が行う。	● 絶対にいやだという ● 食べられない時に食事量を詳しく聞かれるので、患者はいやになってしまう。
	24				38.5	口唇の乾燥・口渇あり、夜間何度か水を飲む。 口内痛強い。 口渇な持続しているが、口内痛が軽減してくる。	夜間、ぬれマスクをすすめる。 アズレン含嗽もすすめる。 Dr から再度、鼻腔ゾンデすすめられる。  超音波吸入すすめる。	● ぬれマスクは良かった。 ● アズレン含嗽はさっぱりする。 ● 口から摂取したいという意欲みられ、ゾンデを拒否する。
	27						アズレン含嗽、溶くのが面倒なので1日分づつ、つくって渡す。	● 蒸気がかもこしていやだ、面例くさいとすぐやめてしまふ、痛みではないためそれ程効果ないのか？。 ● 含嗽はさっぱりして良いと自分からすすんで行う。
	3/2			⊕ 5割 ⊖ 5割	38.5	食事がしみなくておいしくなかった。 左口角がくっつくが痛みは少ない		

	9 11	42		⊕ 8割 ⊖ 7割	40.0	外に出ていた tumor 再び増大 口内の反応はおさまってきている。	切開排膿 (Dr 施行)	
Ⅲ     期	3/12	43	治療再開 180 R 左口腔へ 5×/W			口内痛少ない。義歯を入れても痛くない。		● 180 R に減量して治療再開。
	23		4420 R	⊕ 5割 ⊖ 3割	38.0	再び口内白く荒れて痛みが出現。 左鼻粘膜発赤、出血少量あり		● 自分でも治療による反応と判断し、自分から ピオクタニン塗布、コメガーゼ保護。 ねれマスク使用など工夫する姿勢がみられる。
	28		4960 R			咽頭異和感、痛み、乾燥、口渇あり	人工唾液すすめる。	● 口渇に対して効果あり、自分からすすんで含 嗽をしている。
	29 30		29日～4/2まで 学会のため治療休 み			さらに上記症状増強 外に出ていた tumor 縮少良くなっている。	再度超音波吸入すすめる。	● 超音波吸入を休むと咽頭痛強くなり、自分か ら吸入しようという気持ちになってくる。
	4/1			⊕ 7割 ⊖ 4割	38.0	夜枕元にぬれタオルを置くと乾燥が少し防げると言う。		
	3 5	67	治療再開 5500 R	夕～5分軟菜 ⊕ 8割 ⊖ 5割		口内痛は続いているが、咽頭痛は少し楽。 おさしみが好きで食べられたと言う。 口内痛、咽頭痛、口内荒れ、口渇が再び強くな ってきたけれど、がんばって食事摂取している。	副食を軟刻から軟菜になる。  照射の前後に氷片をなめてもらい、口内を 冷やすようにする。 吸入とアズレン含嗽すすめる。 ピオクタニン塗布	● 夕食の副食はおいしくて、いつもよりたくさ ん食べられた。 ● 氷はいやでないと受け入れる。
	10	72	6040 R 治療終了			ぬれマスクは毎夕、自分で用意して使用してい る。		● 治療があとわずかで終わるとがんばっている。